

## 1. 総評

**(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**

昨年度学校統合をして開校2年目である。生徒は統合後の大きな混乱もなく、順調に新校になじみ、日々学習、行事、委員会活動、部活動に励んでいる。また、授業規律をしっかり創ることができ、大きな問題行動もなく、落ち着いた学校環境が維持できている。

前年度の成果と課題については以下の通りである。

- ① 基礎学力定着について区学力調査により不十分な点が判明した。その後、該当教科を中心につまづき箇所の点検や総復習を行い、定着度を高めることができた。しかし、まだ目標値の通過率は低い状態であり、30年度に引く継ぐ課題である。
- ② 不登校対策については、毎週委員会を開き、管理職やSC、SSWも交えて生徒一人ひとりの状況把握と今後の対策を検討し、それに基づく指導や対応を組織的に行ってきた。その結果、教室復帰に至らなくても、段階的に良い状況に引き上げられた生徒もいる。30年度に向けて、不登校の未然防止に努めると同時に不登校状況にある生徒への手厚い対応を継続して行っていくことが課題である。

**(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**

**重点的な取組事項－1** 基礎学力向上を目指して、授業とそれに関わる課題付与、点検を中心とした朝ベーシック、放課後補充各種学習コンクール、確認テスト等をセットにした総合的な基礎学力定着の取組を全校体制で進める。主な取組については、別途学力向上アクションプランの通りである。

**重点的な取組事項－2** 不登校など学校不適応症状を起こす生徒への対応を的確に行うとともに問題行動のない落ち着いた学校の生活環境を維持する。主な取組としては、SC、SSWの有効活用を図り登校しぶりからの対応など個に応じた対応をきめ細かに行う。

**重点的な取組事項－3** 小中連携事業を充実させ、透明性の高い経営を心掛け、学校への信頼や期待を高め地域からの入学率を上げる。主な取組としては、中1ギャップの解消を目指した小中連携事業の推進地域行事でのボランティア活動参加の推進などである。

**(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性**

**重点的な取組事項－1** 学力向上 授業とそれに関わる課題付与、点検を中心として、朝ベーシック、放課後補充、各種学習コンクール、確認テスト等をセットにした総合的な基礎学力定着の取組を全校体制で進める。

**【成果】**

- (1) 区学力調査結果は昨年度より上昇し、目標を達成した。
- (2) 「学力向上アクションプラン」を全教員がそれぞれの教科に関して作成に加わり、全校体制で学力向上に取り組めた。

**【課題及び解決の方向性】**

- (1) 1年の学習意欲の向上と学習習慣の定着、2年の学力中間層の引き上げが大きな課題である。
- (2) 明確な目標や意欲が不足しがちな1, 2年に対する学習ガイダンスを充実させる。

**重点的な取組事項－2** 不登校など学校不適應症状を起こす生徒への対応を的確に行うとともに問題行動のない落ち着いた学校の生活環境を維持する。

**【成果】**

- (1) 学校内外で大きな問題行動がなく、学校全体が落ち着いた中で教育活動を進めることができた。
- (2) いじめ対応についてその予防を図る指導の充実に努め、また発見に向けた観察や聞き取りや指導を確実に行った。

**【課題及び解決の方向性】**

- (1) 不登校生徒は夏休み以降、徐々に増え出してしまった。
- (2) 不登校対応は、SCやSSWとも役割分担をしながら取組み、個々の生徒の目標を定めスモールステップで少しずつ学級への復帰段階を引き上げていけるようにしていく。

**重点的な取組事項－3** 小中連携事業を充実させ、透明性の高い経営を心掛け、学校への信頼や期待を高め地域からの入学率を上げる。

**【成果】**

- (1) 小中連携事業については年6回の研修会で相互理解と教員交流は更に深まり、中学校での学習指導に活かせるようになった。
- (2) 地域行事への生徒ボランティアの参加も定着し、地域行事に欠かせない存在になっている。特に下級生が良く参加した。

**【課題及び解決の方向性】**

- (1) 新校舎の完成に併せ、教育活動の一層の充実と地域の諸活動の拠点としてその機能を充実させていく。
- (2) 防災活動や災害時の避難活動など地域の課題にどのように応えていけるのかを検討していく。

**(4) 保護者や地域へのメッセージ**

中学校の3年間はあっという間に過ぎ去ります。  
 しかし、その3年間は思春期の始まり。自我に目覚め、将来への夢と不安、自己肯定と自己否定が錯綜する不安的な時期です。だから、この3年間は、決して穏やかでも順調でもありません。しかし、その中で生徒を確かな道に向かうように励まし、鍛えることで生徒は大きな成長をみせてくれます。  
 それが、本校の教育活動の骨格です。  
 励ます。チャンスを与える。鍛える。甘やかさない。信じる。  
 個に応じて丁寧に、そして意欲を高め、繰り返し行う学習指導、誰もが安心して過ごせる学校生活、生徒活動を前面に出した学校行事など、真面目でやる気に満ちた子どもたちには絶好の舞台がそろっています。地域とともに歩む江北桜中学校にこれからも温かいご支援を頂きますようお願いいたします。

**2. 平成30年度の重点的な取組事項**

＜達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る＞

**重点的な取組事項－1 学力向上** 授業とそれに関わる課題付与、点検を中心として、朝ベシック、放課後補充、各種学習コンクール、確認テスト等をセットにした総合的な基礎学力定着の取組を全校体制で進める。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
全生徒の基礎学力の底上げを図り、区学力調査の通過率を引き上げる。	区学力調査 通過率 60.0%	区学力調査 通過率 60.1%	全体としては基準を上回り目標を達成したが、3年英語が予想よりも低く、また、1年が正答率で区平均を下回る等の課題も見えた。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

**重点的な取組事項－2** 不登校など学校不適応症状を起こす生徒への対応を的確に行うとともに問題行動のない落ち着いた学校の生活環境を維持する。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校生徒数の減少ならびに教室への復帰段階を上昇させる。またいじめや大きな問題行動がなく安心して過ごせる学校環境を維持する。	29年度比で不登校生徒数の減少。教室復帰に向けた改善段階を上昇させた生徒の割合を60%。	不登校生徒の割合は29年度から1%減少でほぼ変わらず。また、改善段階の上昇については、上がったりがったりを繰り返すため明確な数字は出せない。	生徒の状況がそれぞれで異なり、単純にこうすれば良くなるということがない。極めてデリケートな面もあるので、今後も注意深く対応していく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校の未然予防と対応	29年度比で該当生徒数減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校しぶり状態からの早めの対応。</li> <li>SC, SSWと連動して原因を早く捉え、登校できる環境づくりを進める。</li> </ul>	不登校生徒の割合は29年度から1%減少でほぼ変わらず。	心因性のもので集団忌避や対人関係構築が難しいケースも多く、SCの力を借りて対応している。	△
スモールステップで教室への着実な復帰	段階を上昇させた生徒の割合が60%	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当生徒、保護者と一緒にスモールステップの目標づくり。</li> <li>学校の受け入れ態勢の整備</li> </ul>	改善段階の上昇については、上がったりがったりを繰り返すため明確な数字は出せない。別室での対応準備はできた。	教室に戻るも継続しないケースや学校そのものへの拒否感など難しい。	○
いじめや大きな問題行動対応	いじめ事案の100%解決。大きな問題行動ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校独自のいじめアンケート（毎月）実施。</li> <li>迅速な聞き取りと指導を対策委員会の指揮下で実施。</li> </ul>	いじめは無くなったようにみえてもまた繰り返すこともあるので現時点で100%解決とはいえない。大きな問題行動は0件。	その都度解決に向けて働きかけを継続している。無くなってからもまた繰り返すこともある	◎

**重点的な取組事項－3** 小中連携事業を充実させ、透明性の高い経営を心掛け、学校への信頼や期待を高め地域からの入学率を上げる。

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
地域や小学校との関係を強化する中で、学校への信頼や期待をさらに高める。その結果として、地域小学校から入学する生徒の高い割合を維持する。	地域小学校からの平均入学率75%	地域小学校からの入学希望生徒は62%。地域行事へのボランティア活動傘下生徒は目標の200名を達成。	新校舎完成という大きな節目を迎える中で、一層地域と密着して教育活動をすすめる、地域の諸活動の拠点として、センター的な役割を果たしていきたい。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習の接続を図り、中1ギャップの解消を目指した小中連携事業の推進。	地域小学校からの平均入学率75%	<ul style="list-style-type: none"> <li>年6回の合同研修会および中学校体験入学などの実施。</li> <li>小中共通の足立スタンダードに基づく授業研究の実施。</li> </ul>	地域小学校からの入学希望生徒は62%で基準をクリアした。また、小中連事業は予定通り年6回実施し、内容の濃い合同研会が実施できた。	小中連携事業で相互理解と交流が一段と進んだが、次の段階に進む時期に来ている。	△
地域行事でのボランティア活動	延べ200名を超えるボランティア活動参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事への生徒ボランティア活動の積極的な参加と行事での児童など異年齢交流の活性化。</li> </ul>	ここまで地域行事などでボランティアが13回要請されたが、参加生徒数はのべ209名。目標を達成した。	地域への貢献活動の一環として今後も継続して参加を促していきたい。	◎

### 3. 学校活動全般について

学習指導が学校の根幹であることを考えれば、基礎学力定着、学力向上は学校の優先課題であることは言うまでもない。それについて本校では別紙「学力向上アクションプラン」にあるように、全教科、全教員が関わり学校を挙げて取り組んでいる。国語、数学、英語などの受験教科だけが「学力」ではない。また、やる以上は「成果」を数字で表していきたい。

一方、いじめ、不登校、問題行動は未然防止が大切であると同時に息の長い取組や地道な対応が求められる。これも学校が真剣に取り組むべき課題と認識し、毎日、教員のみならずSCやSSWの力も活用しながら対応している。しかし、すべてが教室復帰につながる等の成果があがるわけではなく、その根は大変深く、厳しいものがある。

教育活動は派手なパフォーマンスではなく、地道に継続して行う中で成果を出すもの。今後も生徒の状態に合わせて、粘り強く取り組んでいく。